

令和7年度

徳島市宮井小学校  
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- ①基礎的・基本的な学力の向上に向けた授業の推進
- ②言語活動を充実させ、自分の考えを分かりやすく伝える児童の育成
- ③進んで学習に取り組む態度を育て、学校と家庭の連携による学習習慣の確立

校長

川中 善暢

学力向上推進員

学力向上推進員 教諭 大西翼	委員	校長	川中善暢	
	教頭	教諭	林洋美	
	教諭	1年担任	鳥山実咲	
	教諭	3年担任	大住佳代	
		教諭	5年担任	赤堀真之

【小中連携における共通の取組】

めあての提示と学習の振り返りを行う。

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○児童の漢字・計算などの基礎学力向上を目指し全校で取り組んでいる。漢字の読み書きや計算などの基礎学力を身に付けることが概ねできている。 ●漢字の読み書きや計算などの基礎学力の個人差が大きい。また、語彙量が少なく、文章を書くこと・話すことを苦手とする児童が見られる。	①漢字や計算などの基礎的・基本的な知識・技能を8割以上身に付けることができる。 ②各学年で定めた目標読書冊数を目指して、進んで読書に向かうことができる。 ③自分の思いや考えを話すことができる。	①ドリルやプリント、テストなどで児童の習熟度を確認する。「くじゃくタイム」を活用し、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る。個人の能力に応じて、自主学習やタブレットドリル等の課題に取り組めるような場を設定する。 ②読書カードを活用し、多読賞を設ける。学級図書を入れ替え、様々な本に親しむ機会を確保する。 ③話し方の型を示す。日記やスピーチ、対話的活動などで相手に自分の思いや考えを伝える機会を増やす。	①「くじゃくタイム」のドリル学習では、15分という限られた時間なので児童が見通しをもち、集中して課題に取り組む姿が見られた。タブレットの活用では学年の差があるので、どの学年においても計画的に使用していくようにする。 ②読書の機会の確保については、読書カードの活用や学級担任からの言葉がけなどで、積極的に読書する環境が整ってきた。また、家庭での読書習慣の啓発に努める。 ③話し方については、授業中や朝の会などで対話的活動の時間を設け、話す聞く力を養っている。引き続き自分の思いや考えを伝える機会を増やしていく。	①個人差はあるが、平均すると8割以上身に付けることができた。 ②学年が上がるにつれて、読書量が少ない傾向がみられる。また、家庭での読書の習慣の定着は十分ではない。 ③自分の考えを相手に伝えるように話すことができる児童が増えてきた。	・引き続き基礎的・基本的な知識・技能の定着を図るための場と機会を確保する。 ・読書カードの内容と活用の仕方を見直す。 ・学級図書の入れ替えは、引き続き行う。 ・学年に応じた話し方の型を示す。また、日記やスピーチ、対話的活動などで相手に自分の思いや考えを伝える機会を増やす。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○与えられた課題に対しては、自分の意見をもつことができる。 ●自分の考えを発表することに消極的な姿がみられる。	自分と友達の考えを比較しながら聞き、自分の考えを意欲的に表現することができる。	①相手の意見を聞き、それに対する自分の考えをもつ場を学年に応じて設定する。 ②発表の形式をスモールステップで指導し、様々な形での発表の機会を増やす。 ③「自分の意見が相手に伝わる」という成功体験を重ねることで、達成感を味わわせるとともに、安心して発表できる環境づくりを行う。	①自分の考えをもつことはできているが、発表で個人から全体に広げること課題がある。 ②引き続き、発表の機会を増やし、安心して発表できる環境づくりを行う必要がある。 ③聞く力を高めるために話を聞く姿勢や態度を粘り強く指導していく必要がある。	①②友達や教員の話聞く力が高まったことにより、個人から全体の場に、意欲的に表現することができる児童が増えた。 ③自分の考えと相手の意見を照らし合わせながら聞くことができているか振り返る機会を十分に取れなかった。	・考えを深めることができるよう、児童の実態に応じて、話し合いの軸を示すなど支援を行う。また、様々な考えに触れる機会を増やし、それを基に自分の考えを深められる機会を確保する。 ・教師が問い返しをしたり、ペア・グループ学習の時間を設けたりすることで、比較しながら聞くことができているか確認する場面を設定していく必要がある。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○与えられた課題に対して、真面目に取り組むことができている。 ●自分から課題を見つけて取り組むことができにくい。 ●推奨される家庭学習の時間を学年に応じて伝えているが、学年が進むにつれて、家庭学習の時間が確保できていない状況である。	①学習課題に意欲的に取り組むことができる。 ②自ら課題を見つけ、自ら進んで学習に取り組むことができる。	①授業の中で体験的な活動を取り入れ、学習する楽しさを味わうことができるようにする。(ICT機器の活用やホワイトボードミーティング、直接的な体験活動等) ②「家庭学習の手引き」に沿って自ら課題を見つけ、分かる喜びを感じ、根気よく取り組む態度の育成を図る。	①体験的な学習は全ての学年において充実していた。今後、さらに主体的で、協働的な学びになるよう、研修などで得た知識やスキルを校内で共通理解する機会を設ける。 ②家庭学習を意欲的に取り組んでいる児童を紹介し、より一層の意欲向上を図る。	①体験活動、ICT機器の活用により、児童がより意欲的に学習に取り組むことができた。 ②多くの児童が、日々の家庭学習に取り組むことができていた。与えられた課題には真摯に取り組んでいるが、自分で課題を見つけて取り組む自主学習については、消極的な児童もみられた。	・今年度に引き続き、体験的な活動や、ICT機器の活用を通して、児童が意欲的に学習に取り組めるよう努める。 ・課題についての調べ方やまとめ方など、自主的に学ぶ方法を身に付けさせる。